

|                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>神の家族の幸い 詩篇 128:1-6</b> | 2022. 10. 2 庄・丘 NO. 687<br>春日部福音自由教会 山田豊 |
|---------------------------|--|

教会は神の家族である、とはよく言われる言葉であると思います。

詩篇 127 篇と 128 篇は、家を建てるとは家庭を築くことであり、家庭の営みの祝福を歌っている詩篇です。

家族の営みの幸いは、結論から言えば、1 節にあるように神を恐れる人たちにあると言えます。4 節にも「主を恐れる」とあります。この恐れるというのは、神を怖がることではありません。リビングバイブルでは、このように訳されていました。「主をおそれかしこみ、信じて従う人に祝福がありますように。」これは、①主なる神に敬意を持つ、敬う②神の意志に従うこと、という聖書注解の解説を反映した良い訳文であると思います。

3 節には、妻は豊かに実を結ぶブドウの木にたとえられ、子供たちはオリーブの木にたとえられるお父さんを囲む若木のようにと書かれています。まさに、漫画サザエさんのような家族の様子が目に浮かぶようです。

先週の月曜日、長野県上田市にある無言館を訪れました。これは、太平洋戦争中に軍隊に召集され、命を失った美大生の作品が展示されている美術館です。その中に「家族」という作品がありました。作者である伊澤洋の家族団らんの風景です。しかしこの和やかな絵は、洋の空想の光景であり、現実には洋を美大に上げるために庭のケヤキを売ったほどの貧しい農家で、家族そろって食卓を囲む時間すらないような家庭だったそうです。そんな逸話があってもこの絵を見たある若者は「家族っていいな」という感想を残しているのです。

故郷に帰ったイエスは、血筋によらない新しい神の家族があることを語りました(マタイ 12:46-50)。またヨハネは、キリストを信じる者は神の子とされ、肉の血筋によらない新しい誕生があると書きました(ヨハネ 1:12-13)。またパウロは、イエスキリストの贖いによって、私たちはすでに神の家族とされていると書きました(エペソ 2:19)。教会がエルサレムに生まれたときの構成員は、ユダヤ人でした。しかし福音は異邦人に届けられ、教会にはいろいろな人たちが集うようになりました。文字通りミックス家族ですが、キリストにあって一つだったのです。

私たちの国の家族、家庭の営みはどうでしょうか？人間の営みによってなされる家族のかかわりは、今日では複雑になり、深刻な問題を起こしています。「家族っていいな」といわれるような、神の家族としての教会となるよう、祈り努めたいものです。

引用聖句

マタイ5:3-10文語訳

- 3 幸福なるかな、心の貧しき者。天國はその人のものなり。
- 4 幸福なるかな、悲しむ者。その人は慰められん。
- 5 幸福なるかな、柔和なる者。その人は地を嗣がん。
- 6 幸福なるかな、義に飢ゑ渴く者。その人は飽くことを得ん。
- 7 幸福なるかな、憐憫ある者。その人は憐憫を得ん。
- 8 幸福なるかな、心の清き者。その人は神を見ん。
- 9 幸福なるかな、平和ならしむる者。その人は神の子と稱へられん。
- 10 幸福なるかな、義のために責められたる者。天國はその人のものなり。

箴言1:7 【主】を恐れることは知識の初め。愚か者は知恵と訓戒を蔑む。  
伝道12:13 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。

黙示1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである。時が近づいているからである。

創世記3:18-19 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

詩篇122:6 エルサレムの平和のために祈れ。「あなたを愛する人々が安らかであるように。」

マタイ12:46-50 イエスがまだ群衆に話しておられるとき、見よ、イエスの母と兄弟たちがイエスに話をしようとして、外に立っていた。47ある人がイエスに「ご覧ください。母上と兄弟方が、お話ししようとして外に立っておられます」と言った。48 イエスはそう言っている人に答えて、「わたしの母とはだれでしょうか。わたしの兄弟たちとはだれでしょうか」と言われた。49 それから、イエスは弟子たちの方に手を伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。50 だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

ヨハネ1:12-13 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってではなく、ただ、神によって生まれたのである。

エペソ2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。

無言館 [無言館 \(mugonkan.jp\)](http://mugonkan.jp)

長野県上田市古安曾にある美術館。館主の窪島誠一郎氏は、作家水上勉の長男。太平洋戦争で没した画学生の作品と遺品を展示している美術館。美術館「信濃デッサン館」（現・KAITA EPITAPH 残照館）の分館として1997年（平成9年）に開館した。窪島誠一郎は、自らも出征経験を持つ画家の野見山暁治とともに全国を回って、戦没画学生の遺族を訪問して遺作を蒐集した。